

# 精華町 第6次総合計画

人がつながり夢を叶える

学研都市精華町



令和5年3月

精華町



# 精華町第6次総合計画について

新しい総合計画を策定しました。

まだ遠い将来のことと考えてきた精華町における学研都市建設の完成も、残る3分の1の学研地区開発の完了が視野に入る段階へと差し掛かってきた今、いよいよ概成後の未来の姿をデザインしなければなりません。持続可能な自立都市としてわが町が将来にわたり発展を続け、人々が夢と希望にあふれ幸せを感じできる精華町であるために、新たな総合計画を策定いたしました。



計画策定にあたっては、住民の皆さまからのアンケートやワークショップ「せいかカフェ・ラボ」などを通じて多くのご意見をいただきました。とりわけ「せいかカフェ・ラボ」参加者の皆さまの熱い思いと熱心な議論のおかげで、みるみるうちに学研都市精華町の未来像が描かれていく様子は驚きの連続でした。

策定過程において明らかになった学研都市精華町の未来像、そして人と人とのつながり豊かな地域社会のイメージは、広く町民の皆さまと共有できるものと考えています。

最後になりましたが、今回の計画策定に関わってくださったすべての皆さん方に心から感謝とお礼を申し上げます。

精華町長 杉浦正省

## 第6次総合計画の特徴

精華町は、「関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)」(以下「学研都市」という。)の中心都市として建設が進められたまちであります。

その歴史においては、美しい田園と里山の風景を擁する郷土が育まれ、学研都市建設の開始以降も開発と保全の調和のとれたまちづくりのもと、既存集落の住民と市街地の住民がともに緑豊かな精華町を愛し、個性豊かな地域コミュニティが育まれてきました。

一方、これまでの「学研都市精華町」としての学研都市建設は、「文化学術研究地区※」(クラスター、通称「学研地区」)開発のうち、概ね3分の2の完成をみましたが、残り3分の1となる学研泊田地区の開発がようやく本格的に始まりつつあるなか、精華町における学研都市建設が概成した暁の将来像を明らかにしなくてはならない地点に立とうとしています。

こうした背景から今回の総合計画では、学研都市建設概成後の未来都市をイメージしながら、「緑豊かな調和のとれたまちづくり」はもちろんのこと、学研都市の高度な都市運営を支える自立のまちづくりを基本理念として加え、さらに、学研泊田地区の開発に伴う「産業集積の拠点」や、学研都市建設概成後を見据えた「未来のゾーン」を新たに位置付けました。

そして、今回多くの住民の皆さまから「つながり」の重要性が語られたことから、基本理念、将来像にその思いを込め、さらにコミュニティ圏域のめざす地域の姿においても、住民の皆さまの意見を踏まえて新たに設定しました。

こ  
ち  
ら  
か  
ら  
内  
容

### ※文化学術研究地区

学研都市の区域のうち、文化学術研究施設、研究開発型産業施設または文化学術研究交流施設、公共施設、公益的施設、住宅施設、その他の施設を一体的に整備する地区のこと。

## 総合計画とは

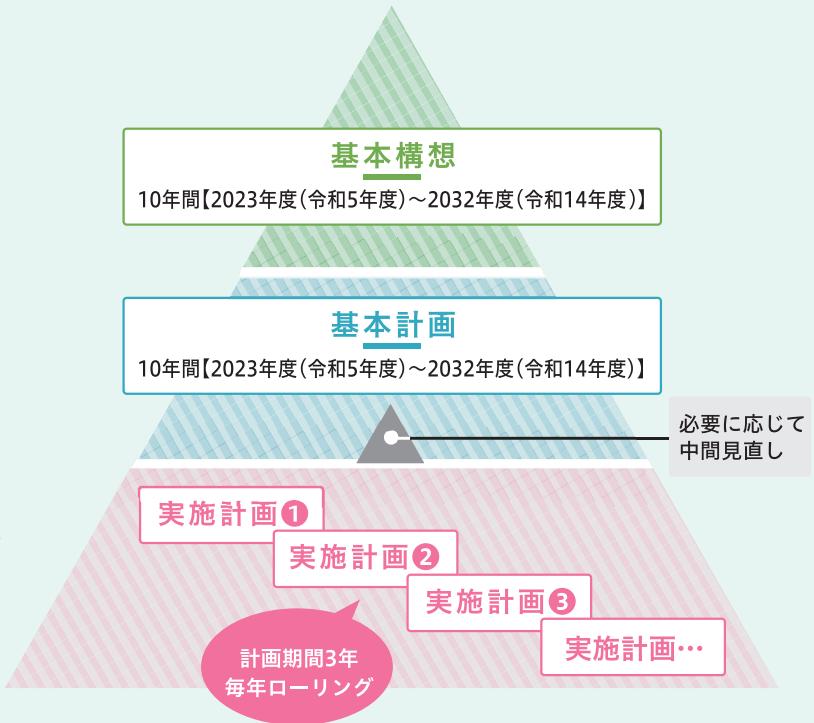
町の将来ビジョンを示した「基本構想」とその実現のために何をしていくのかを示した「基本計画」からなるまちの最上位計画です。

計画期間は10年間で、精華町では今回で6回目の策定となります。

基本構想は、精華町の長期的なまちづくりの基本方向を示すもので、まちづくりの基本理念や将来像のほか、その実現に向けた考え方を示しています。

基本計画は、基本構想に掲げる「基本理念」や「将来像」などを実現するための施策を体系的に示し、柱単位で各施策の目標像や取り組み内容を示します。

実施計画は、基本計画で定めた各施策の具体的で実効性のある計画として毎年3か年計画を定めることとしています。



## 住民主体の計画づくり

今回の総合計画も、アンケートや住民ワークショップ「せいかカフェ・ラボ」、小中学生による作品コンクールなどを通じて多くの意見をいただきました。

皆さまの意見や提案は、基本構想の「基本理念」、「将来像」やコミュニティ圏域の「めざす地域の姿」、また基本計画の各施策の見直しに取り入れました。



住民ワークショップ「せいかカフェ・ラボ」の様子



## 1. 基本理念

これまで連綿と引き継がれ、この先も変わらずめざすまちづくりの基本的な考え方をはじめ、学研都市精華町のまちづくりの最終的な未来の姿を支える基本理念として、概ね30年後を見据え、以下の5つを掲げます。

### 【基本理念】

#### 緑豊かな調和のとれたまちづくり

先人から受け継いだ緑豊かな郷土と文化を愛する心を育み、今後も、開発と保全、都市と農村の調和のとれたまちづくりをめざします。

#### 将来にわたり高度な都市運営※を支える自立のまちづくり

学研都市の中心都市として、高次都市機能や質の高い行政サービスを持続的・安定的に提供できるよう、計画的な産業集積と人口定着による自立のまちづくりをめざします。

#### 子どもたちが夢をもち輝けるまちづくり

昭和43年(1968年)に制定された「こどもを守る町」宣言※のもと、次代の担い手である子どもたちが未来に向け夢をもち、一人ひとりが輝けるよう、愛されて健全に育まれるまちづくりをめざします。

#### 誰もが健やかに暮らせる安全・安心のまちづくり

一人ひとりが健康づくりに主体的に取り組む元気で健やかなまちづくりをめざします。また、基地を抱えるまちとして、地域防災力を高め、安全・安心なまちづくりをめざします。

#### 人と人とのつながりを大切にするまちづくり

古くから高い住民自治意識に支えられたまちとして、今後も多様なコミュニティ活動を促進し、人と人のつながりを大切にするまちづくりをめざします。

##### ※高度な都市運営

「関西文化学術研究都市サード・ステージ・プラン」(平成18年3月)では、学研都市が都市建設の段階から都市建設と都市運営を並行して行う段階への移行期にあたり、高次都市機能を抱える学研都市の永続的な都市運営を支えるため、①関西全体で学研都市を支える体制づくり、②学研都市を一体化した新たな運営組織づくり、③学研都市全体の産官学連携組織の構築といった目標が掲げられ、それらを総称して「高度な都市運営」とされた。なお、筑波研究学園都市では持続可能な都市運営体制整備として、基礎自治体の広域合併(つくば市の誕生)を経て、自立都市づくりがめざされたが、学研都市では現段階においても「高度な都市運営」に向けた取り組みはあまり進展していない。

##### ※「こどもを守る町」宣言

昭和43年(1968年)に本町において制定され、内容は次のとおりである。「青少年は次代の担い手であり、その健全な成長は町民すべての願いである。本町はここに「こどもを守る町」であることを宣言し、町民すべての熱意を結集してその目的達成のために努力する。」

## 2. 将来像

### 10年後のまちの将来像 人がつながり夢を叶える学研都市精華町

「人」は、本町に住む人、町内で働く人、町内で学ぶ人、町外から訪れる人、町外から本町を応援してくれる人など本町に関係するすべての人を意味します。「つながり」は、これらすべての人が、子育て・教育・福祉・環境・防災・産業・文化などあらゆる場面でつながり、交流と連携が生まれることを意味します。

「夢」は、子どもから高齢者まで一人ひとりの持つ夢が叶い、みんなの夢であるまちの未来のビジョンが実現することを意味します。「学研都市精華町」は、万葉の時代以来の悠久の歴史を誇る神奈備丘陵にあって、自然と共生しながら美しい田園風景が守り続けられる一方、今では最先端の研究施設や研究開発型産業施設が集積し、まち全体が学研都市の中心都市としてふさわしい緑豊かな調和のとれたまちづくりを進めていることを意味します。

今回の総合計画では、これら「人」「つながり」「夢」「学研都市精華町」それぞれに想いが込められた言葉で構成する将来像の実現をめざすこととします。

### 3. 将来人口

将来の京阪奈新線の延伸による沿線開発も想定しながら、コンパクトシティの考え方方に基づき、可能な限り京阪奈新線を含む鉄道駅周辺において人口定着を誘導することとします。

このため、概ね30年後を見据えた人口フレーム（未来人口）として、引き続き50,000人を想定したまちづくりを進めるとともに、本計画期間でめざす将来人口を39,000人と定めます。



10年後  
(令和14(2032)年度末)の将来人口

39,000人

30年後

(令和34(2052)年度末)の未来人口

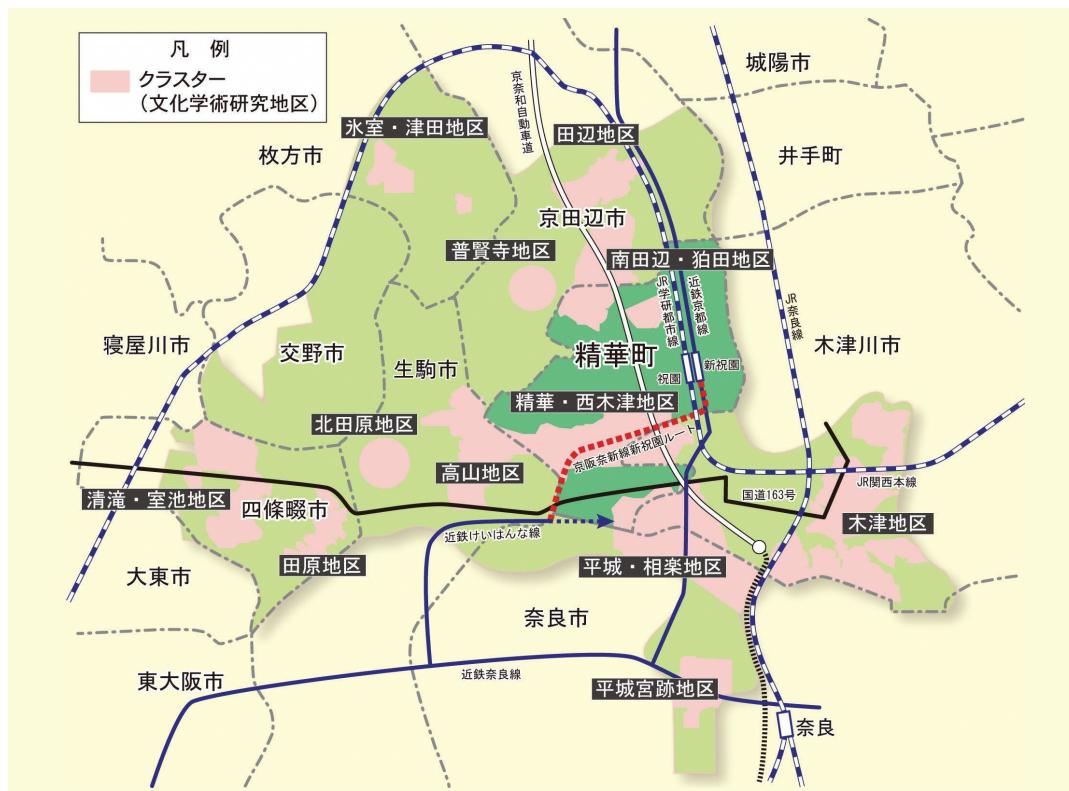
50,000人



### 4. 学研都市の中心都市としての精華町

分散配置された12のクラスター（文化学術研究地区）からなる学研都市は3府県8市町の基礎自治体で構成されており、そのなかでも精華町は中心クラスターである学研精華・西木津地区を抱え、また8市町のなかで唯一町域全体が学研都市の区域に位置づけられています。

今開発が進められている学研狛田地区の都市建設を促進するとともに、学研都市の発展に必要不可欠な京阪奈新線新祝園ルート延伸実現に向けた広範な運動を強力に展開していきます。



けいはんなプラザ、精華大通りメタセコイア並木



谷・北稻八間の農村集落

## 5. 都市構造

精華町の都市構造について、拠点と軸を設定しています。

### まちの拠点

役場庁舎や図書館、病院、商業・業務施設などが集積する祝園駅周辺を位置づけ、町の中心的な都市機能の充実を図るとともに、学研都市の中心クラスターである学研精華・西木津地区の玄関口としての役割強化を図ります。

### 学研の拠点

学研都市の文化学術研究交流機能を担うけいはんなプラザ周辺を位置づけ、学研都市全体のセンターゾーンにふさわしい高次都市機能の集積を図るとともに、研究成果を新産業創出につなげる機能や広域的な集客力のある商業機能の充実を図ります。

### 地域の拠点

学研狛田地区の玄関口となる狛田駅周辺を「北部拠点」、山田川駅周辺を「南部拠点」とそれぞれ位置づけ、商業地の形成など生活利便性の向上を図ります。

### 産業集積の拠点

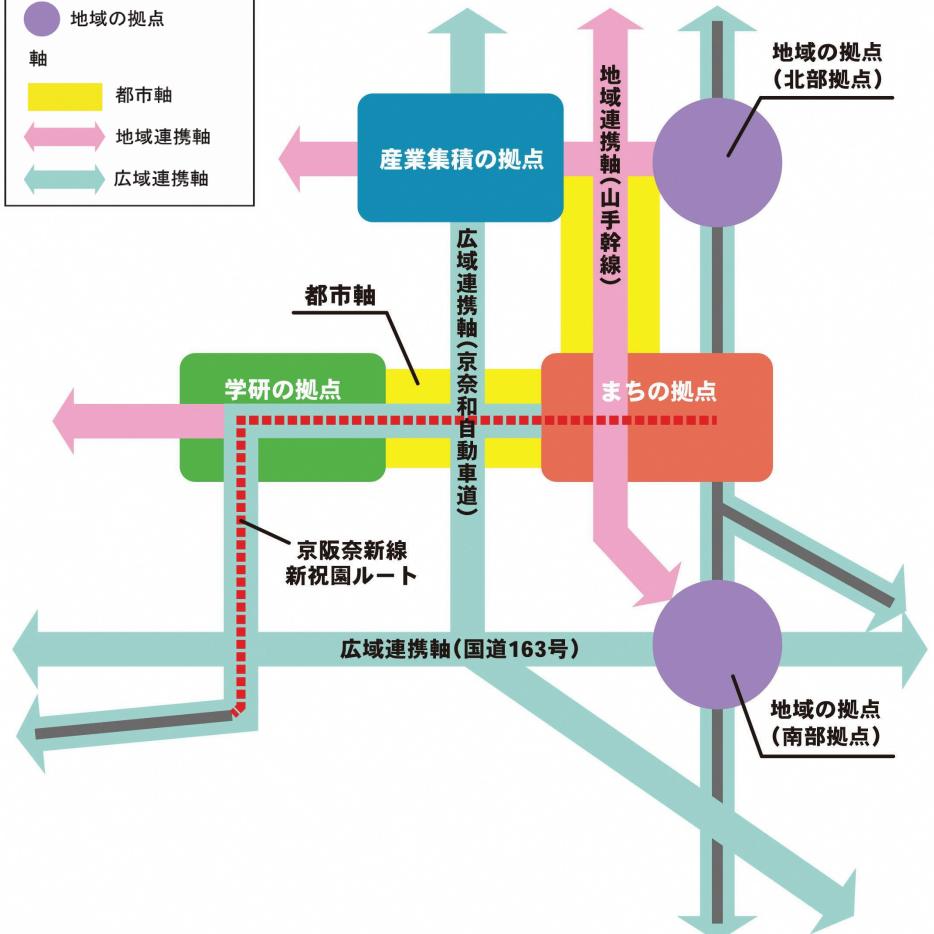
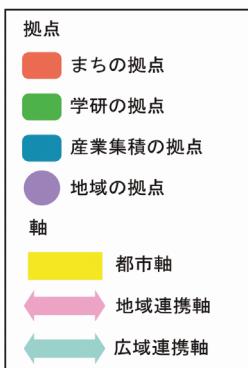
京都府立大学精華キャンパスを中心とする学研狛田地区を本町の自立都市のまちづくりを支える「産業集積の拠点」と位置づけ、「川上から川下まで」幅広い産業集積を図るとともに、学研都市を代表する産業集積拠点にふさわしいアメニティを有する都市機能の充実を図ります。

### 地域連携軸

隣接自治体や町内各拠点間を結ぶ「地域連携軸」として位置づけ、学研都市のクラスター間や隣接市との連携強化を図ります。

### 広域連携軸

京奈和自動車道や国道163号を「広域連携軸」として位置づけ、京都市や大阪市、奈良市などの大都市や国土軸である新名神高速道路、さらには関西国際空港や舞鶴港との連携強化を図ります。



### 都市軸

精華大通りから山手幹線、下狛駅前線を通り、「学研の拠点」と「まちの拠点」、「北部拠点」、「産業集積の拠点」を結ぶ軸をまちの骨格となる「都市軸」と位置づけ、沿道には学研都市の中心都市に求められる多様で高次都市機能の集積を図ります。



山田川の桜堤

## 6. 土地利用の方向性

「緑豊かな調和のとれたまちづくり」という長年の基本理念を堅持しながら、「将来にわたり高度な都市運営を支える自立のまちづくり」をめざした産業集積と人口定着の推進に必要な土地利用の基本方針を示します。

### 農のゾーン

木津川から西側に広がる田園地域や国道163号沿道の農村集落地域を「農のゾーン」と位置付けます。

### まちのゾーン

学研都市建設により形成された新市街地や駅周辺の既成市街地を「まちのゾーン」と位置付けます。

### 山のゾーン

陸上自衛隊祝園弾薬支処を中心とする西部や南部に残る森林地域を「山のゾーン」と位置付けます。

### 未来のゾーン

新たに産業集積や人口定着を図るための調査・検討を行う地区や沿道、沿線を「未来のゾーン」と位置付けます。

### ふれあいゾーン

山田川と煤谷川流域の親水空間を「ふれあいゾーン」として位置付けます。



新たに「未来のゾーン」を設定しました。  
将来の京阪奈新線整備も視野に、  
新たに「未来のゾーン」を設定しました。



## 7. コミュニティ圏域

精華町では、42自治会を基礎単位とする地域コミュニティが形成されていますが、今後、自治会を基礎単位としながら小学校区をコミュニティ圏域とする広域的な地域コミュニティの形成に取り組みます。

### 【コミュニティ圏域のめざす地域の姿】

#### 精北小学校区

産業集積の拠点の形成と  
人が自然とつながる地域

#### 川西小学校区

まちの拠点にふさわしい都市機能の  
充実と田園風景が調和する地域

#### 精華台小学校区

共に考え共に育て  
住み続けたくなる地域

#### 東光小学校区

人と科学と歴史がつながる  
安全・安心で美しい地域

#### 山田荘小学校区

山田川と桜でつなぐ多世代が  
集まりたくなる地域



# 基本計画

## 【施策の体系】

基本計画は、基本構想に掲げる「基本理念」や「将来像」などを実現するために、今後10年間を見通して、政策分野ごとに総合的かつ計画的に施策を展開するための方針を示したものです。施策は4つの章及び14の節、40の柱からなる体系からなり、柱単位で目標像とその実現に向けた取り組みを示しています。

